

# 無形文化財の 継承を育みながら

## 浅田自治会

浅田自治会に於いては、昔から楽舞が継承されています。楽舞は各地に伝え残されており、踊られるところによってそれぞれ違った名前と呼ばれ、又その所々で踊り方や衣装が違い、今なおその由緒により伝承されてきたことと思われまます。

楽舞の始められた由緒についてはいろいろの説話があり、その時代の地域的事情を克服して、皆のための生活を向上させようとした、先祖たちの切実な願いがあったものと思われまます。

この地においても、三隅八幡宮の秋の大祭（9月16日）には、毎年欠かされる事なく踊りが奉納される楽舞は、その名前を「腰輪踊」と昔から言い伝えられていると言ふことです。その楽舞の踊役を構成するものは、腰取、団扇使い、鐘打ちの3種類で胴取、団扇使いは、青・壮年をもって充て、鐘打ちは13才以下の少年10人を充て、神前に奉納されていると聞いています。

浅田自治会では、三隅八幡宮の秋の大祭の引き受けに当たった年と、浅田秋祭り（現在、10月の最終日曜日）に毎年、浅田の古八幡宮で楽舞を奉納している。

# 自治会の窓

ます。

その運営に当たっては、浅田文化部を中心に自治会の当番に当たった班が世話を一手に引き受けて行っていますが、近年その踊役の役者が揃いにくく、文化部の頭を痛めるところとなってきました。

特に鐘打ちの少年を10人揃えるのは、昨今の子供の急激な減少によりまず無理となり、ここ近年は女子を含め、やっと人数を確保すると云った状態です。また、何とか揃った人数でも子供たちのなかにはクラブ、塾稽古事等で忙しく鐘打ちの練習もいろいろと大変になって参りました。小規模の自治会では、全部の子供を集めても到底10人には満たない処もあると聞いております。又、楽舞に使用する小道具、鐘、衣装の買換えや修理費用がかかり、どこの自治会も負担が大きくなっているのが現状ではないでしょうか。

ここ近年、三隅町の人口も減少がめざましく、このような民俗文化の伝承も難しくなっているのが感じられてなりません。



▲ 腰輪踊の奉納

浅田自治会では、お宮の掃除等子供会、老人会を含めた3世代交流の場を設けて実践しています。この3世代交流の場を通して、私たちの生まれ育った地域の過去に触れ、このような民族文化の継承を育みながら、高齢化に立ち向かおうとしている地域社会のますますの発展を願っています。

## 継続事業で 調和と潤いを

### 上中小野自治会

上中小野は三隅町の中ほどや東側に位置し、国道191号線の北側の山を背に、南向きに約50戸の集落があり、殆どが兼業農家であります。

集落の東側に荒神様、西側に大歳様と呼ばれる神社がありましたが、荒神様の社は今はなく昔のような祭りも行われていません。この両神社のほぼ中央に浄土真宗の明恩寺があります。昔は寺の石段の下の館屋で売っていた竹の皮に包んだ板飯は大変おいしく土産物にもなっていました。今では当時を偲せるものは残っていません。

自治会の活動の拠点は、昭和62年に完成した機能的な集落センターです。そのセンターで自治会の諸行事を協議し実施してきました。中でも恒例の行事として「桜ヶ丘草刈り清掃作業」と「泥落しレクリエーション大会」があります。



▲ 荒神社の草刈作業

清掃作業は荒神様のある丘の桜が老木となったため、平成元年に約40本を植樹し、その成長を助けるための草刈り清掃作業を各戸1名参加で7月の日曜日の朝行っています。今では4メートルに育ち、花見が自治会行事の一つに加わる日もそう遠くないと思われまます。

泥落しレクリエーション大会は、田植えを終えた6月の日曜日、麓自治会と合同で全地区民が参加し、午前中は競技を行い、昼からは各自が持ち寄った弁当をひろげ、懇親の場を持っています。この大会は今年で18回となり、明るい自治会づくりの主要行事として定着しています。

これからも、継続して行う自治会行事を少しでもふやすことで、調和のとれた潤いのある地域づくりが出来たらと思ひます。